



大掃除に思う

学校長 井川 勝博

本年も残り数日となりました。とはいえ、年末ともなると、イベントごとも多いのが毎年のことです。クリスマス、終業式などなど。そして、大掃除も恒例の行事となっているお家も多いのではないのでしょうか。この大掃除のルーツは「煤払い（すすはらい）」と言われています。この煤払いという行事は単なる掃除ではなく、正月の神様である歳神様を迎えるための神聖な清めの行事だったようです。そもそも、正月の行事は、新年を司る歳神様をお迎えするためのものが多かったようです。歳神様は家々にやってきて徳を授けてくださると言われています。徳を授けてくださる歳神様を迎えるために家を清めるということです。現在の私たちが大切なお客様がくるまえに家の中を掃除するのと同じ意味があるようです。

私は学生の頃、片づけることが苦手でした。私の身の周り（部屋の中やカバンの中等々）が乱れていた状況にわたしの母親が

「この状況があんたの心の状況や。身の周りが乱れてんのは、あんたの心が乱れてんねん。」

と。その当時はちょっとした反抗期でもあり、すぐにその言葉に反応できたわけではありません。ただなぜだか、あれから数十年たったいまでも、その言葉はわたしの中に残っています。現在でも、机の上や身の周りが整理されていないと、あの母親の言葉が思い浮かびます。「いま自分の心は乱れてるんかなあ」と自問自答したりします。逆に、イライラしたり、どうしようもない感情に見舞われたりしたとき、机の上や周りを片付けたり、掃除機をあてたり、ぞうきんがけしたり、ということをやったりもします。片付いたからその感情がおさまる、とは言い難いですが。大掃除は歳神様を迎えるためということですが、隅々まできれいにしていると歳神様がたくさんの徳を授けてくださる、という意味もあるようで。片づけたり整理をしたりすることで、何か変わるような、変わってほしいような、何か良いことがあるような気持ちになるのは確かです。（すこし打算的で申し訳ないのですが）

多くの場面で同じことが言えるかもしれません。例えば、学習面でもそうだと私は考えます。

「学習は環境から」そういった言葉を教え子によく言っていました。教室のなか、机のまわりの整理整頓。いまから勉強する黒板はきれいか（黒板は消せばいいというものではありません）。もつといえば、机の上から考えなければならないとも考えます。その授業に関係のないものが机の上にないか。数学の勉強をするのに、机の上に国語の辞書があるとか…。これは家庭学習でもいえることです。教室だけではなく、廊下であったり、トイレであったり。玄関の下足箱であったり、傘立てであったり。落ち着いた学習をするためには、それ相応の環境が必要になってきます。学習だけではなく、落ち着いた環境の中でこそ、落ち着いた心が生まれてくるのかもしれません。山手台中学校がそんな学校であってほしいと願っています。

メジャーリーガーの大谷選手がグラウンドのごみを拾っている姿が賞賛されることがあります。彼はその行為を「人が捨てた”運”を拾っている」と表現します。山手台中学校の生徒の皆さんは、毎日の清掃活動にもまじめに取り組んでくれています。だからこそ、学校は美しさが保たれています。美しい学校にはたくさんの「徳」や「運」が舞い込んでくるかもしれません。